

## 4章

## 銃剣道の形

## 1 形の目的

## ポイント

銃剣道の形は、一定の形式と順序によって、礼法、構え、足さばき、気合、呼吸、突く機会、残心、技の攻防などを習得するように組み立てられている。形を練習することにより、正しい姿勢や突き方を身体で覚えるとともに、相手との間合や突く時機、技を出した後の残心などを理解することを目的としている。

## 指導のポイント

形は打方と仕方という役割を決めて行わせる。

- ・「打方」（うちかた）……突かせる方
- ・「仕方」（しかた）……突く方

## 2 銃剣道の形 一本目

(白:仕方、紺:打方)

①



約 10 歩

互いに約 10 歩の距離で向かい合う。

②



仕方

打方と動きを合わせて、礼をする。

打方

仕方と動きを合わせて、礼をする。

③



仕方

打方の構えの動きに合わせて構える。

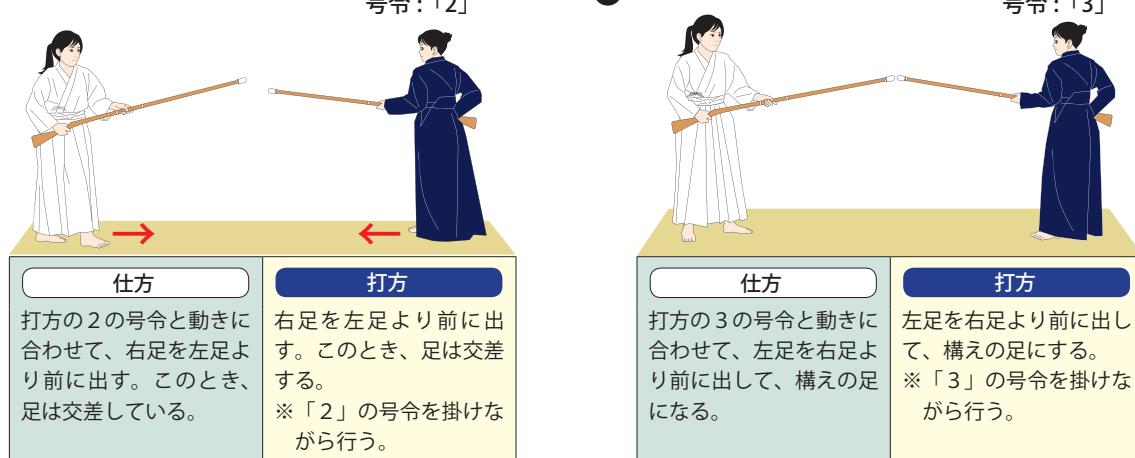
打方

構える。

④



⑤



### 指導上の留意点

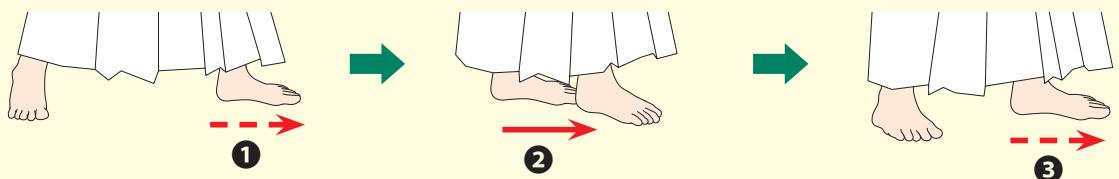
このとき両者の木銃は、わずかに離れている距離になる。

### 指導のポイント

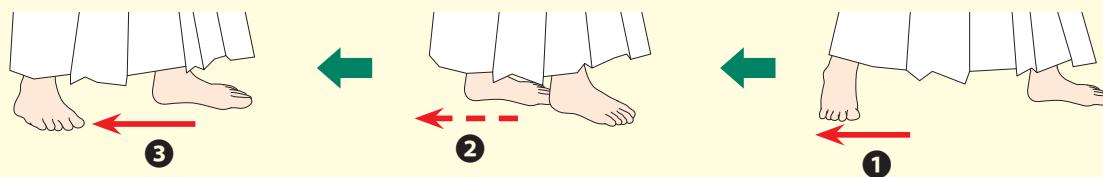
●歩み足……構えの足から、歩くように前進・後退を行う足さばき。  
つま先を床から離さず、すり足で行う。

※左足   
右足

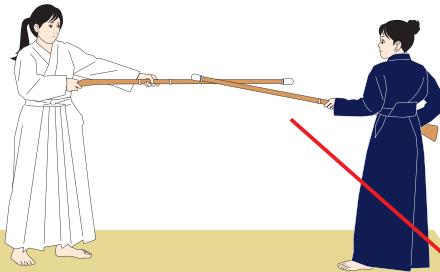
#### 【前進】



#### 【後退】



⑦ 発声：「ヤーッ！」



**仕方**

打方の「4」の号令で木銃が開いたのを見て、「ヤーッ」と声を出して突く。  
※「4」の号令があるまでは突かない。

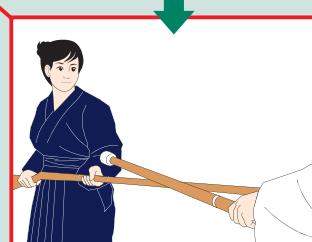
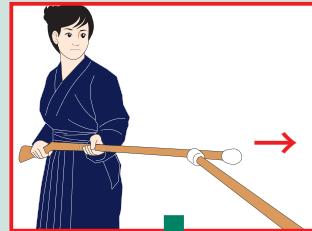
号令：「4」

**打方**

木銃の向きを自身から見て右に動かす。  
※「4」の号令を掛けながら行う。

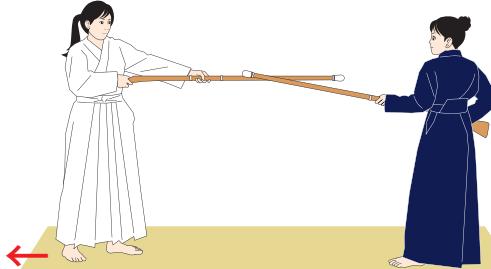
**指導上の留意点**

打方は、自身から見て左に木銃を開く。



仕方は、そのまままっすぐ突く。  
(仕方から見て、打方の木銃は右側にある)

⑧



**仕方**

右足から大きく後ろに下がりながら、木銃を右手で引き抜く。

**打方**

木銃を左に向けたまま動かない。

⑨



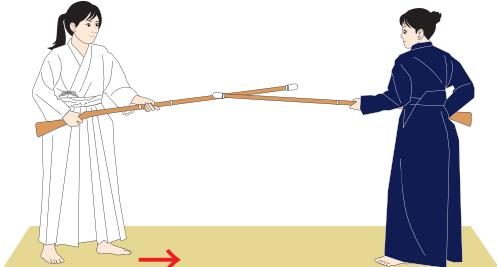
**仕方**

木銃を引き抜いて、構えに戻る。

**打方**

木銃を左に向けたまま動かない。

⑩



**仕方**

「残心」と声を出しながら、左足から小さく一步前に出て、木銃の先をわずかに打方の左手に向ける。

**打方**

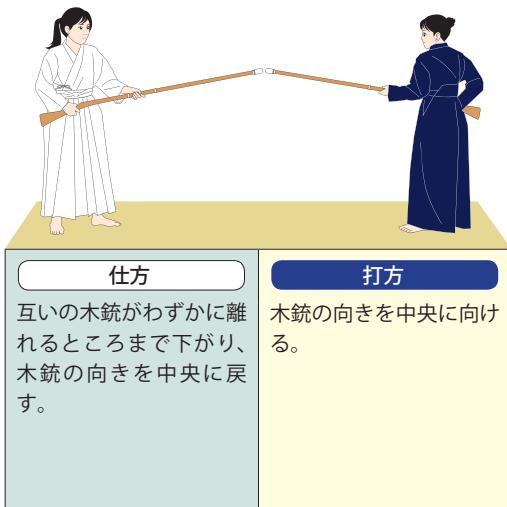
木銃を左に向けたまま動かない。

**指導のポイント**

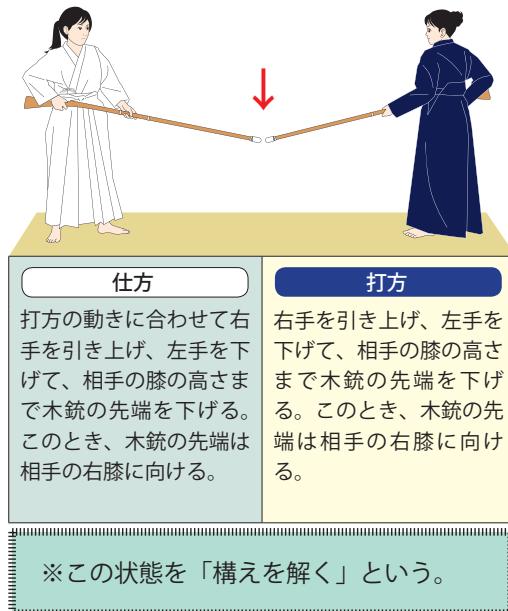
●残心とは……

残心とは、突いた後に油断せず、相手の反撃にすばやく対応できるような身構え（体勢）や気構えのことをいう。

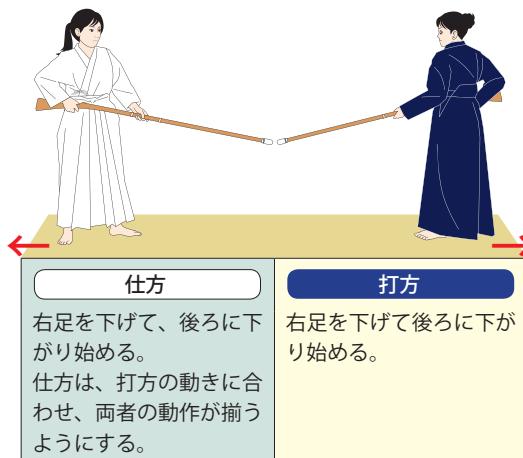
11



12



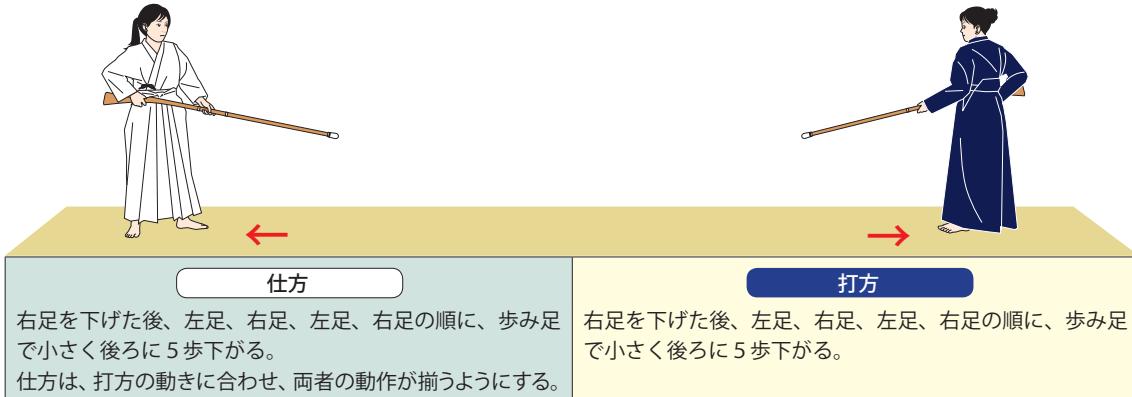
13



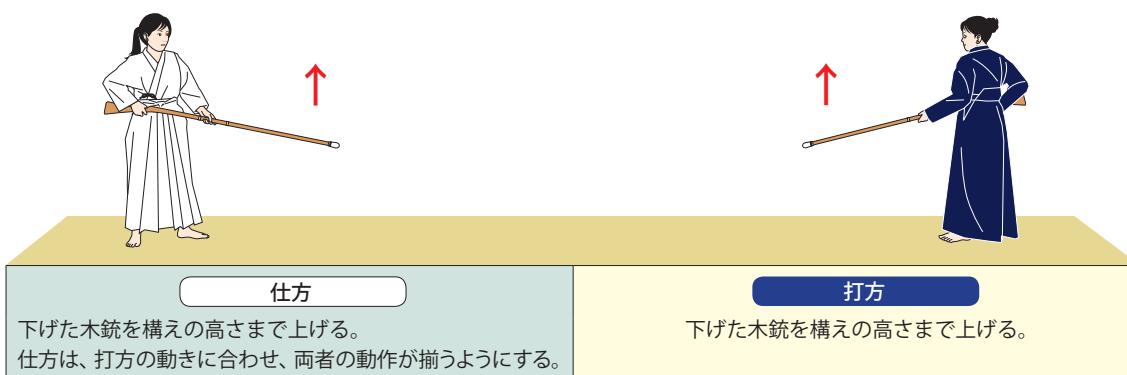
### 構えを解くとは……

構え合った状態から、お互いに剣先を下げることで、「この状態からは攻撃をしません（突きません）」という意志を表すことをいう。

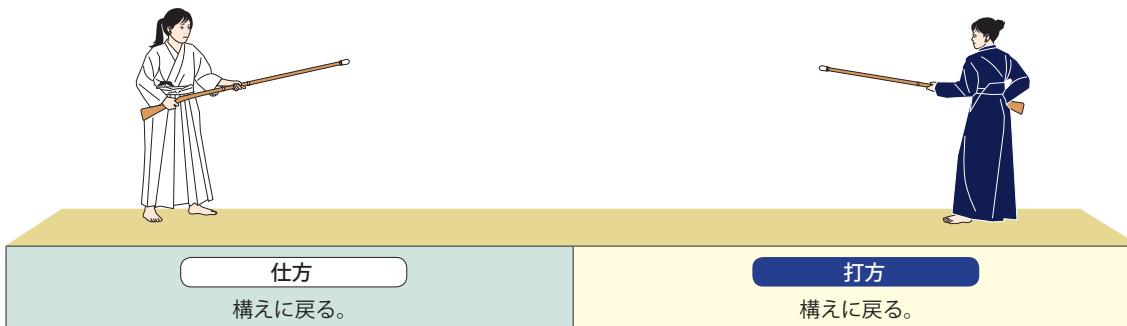
14



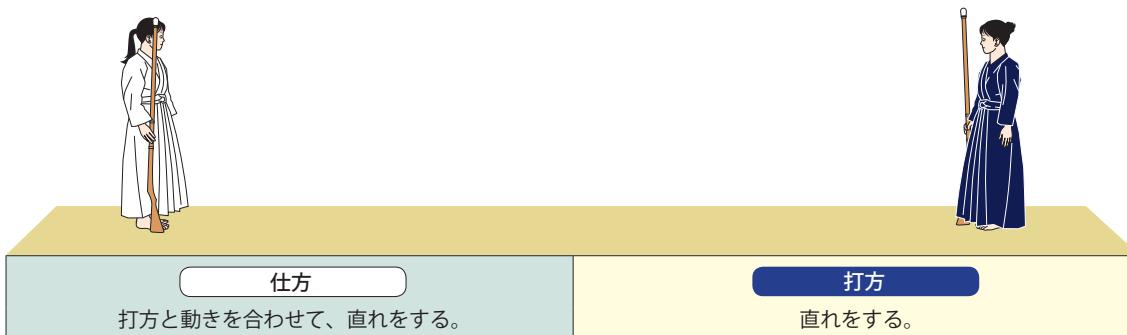
15



16



17



18



×モ

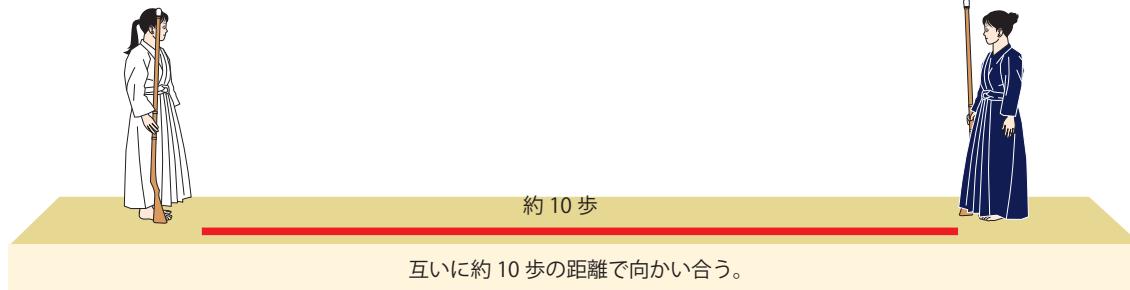
### 3 銃剣道の形 二本目

(白:仕方、紺:打方)

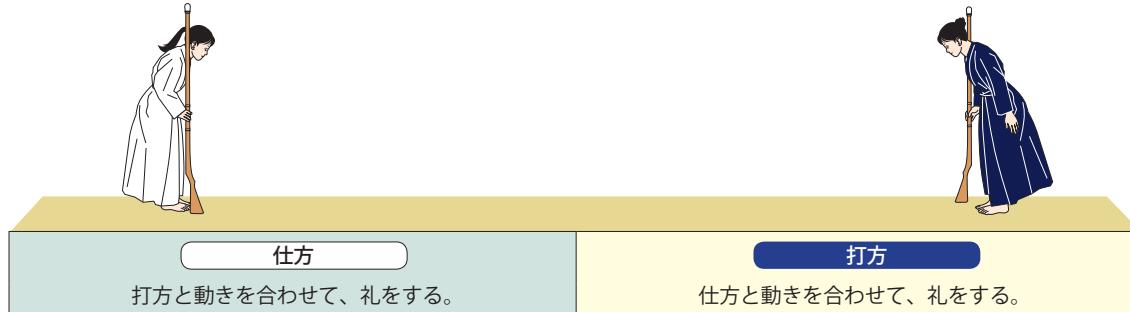
#### ポイント

1本目と2本目を続けて行うときは、1本目が終了したときの礼と2本目を始めるときの礼は行わず、1本目の始まりと2本目の終わりに礼をする。

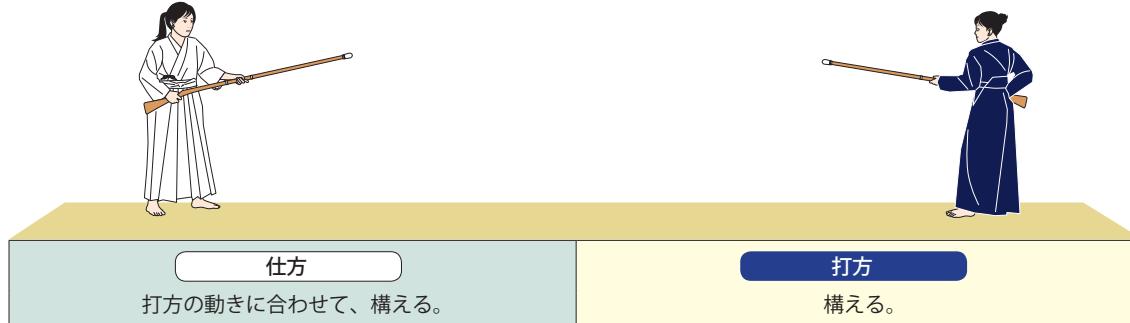
①



②



③

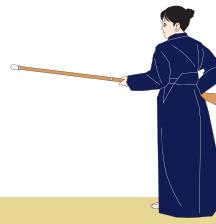


④



⑤

号令：「2」



⑥

号令：「3」



## 仕方

打方の2の号令と動きに合わせて、右足を左足より前に出す。このとき、足は交差する。  
※「2」の号令を掛けながら行う。

## 打方

右足を左足より前に出す。このとき、足は交差する。  
※「2」の号令を掛けながら行う。

⑦

発声：「ヤーッ！」

号令：「4」



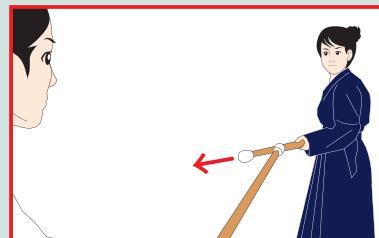
## 仕方

打方の「4」の号令で木銃が開いたのを見て、「ヤーッ」と声を出して突く。  
※「4」の号令があるまでは、突かない。

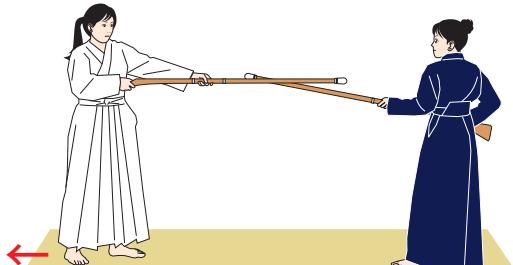
## 打方

木銃の向きを、自身から見て右に20cm程度動かす。  
※「4」の号令を掛けながら行う。

## 突くときの木銃の動き



⑧



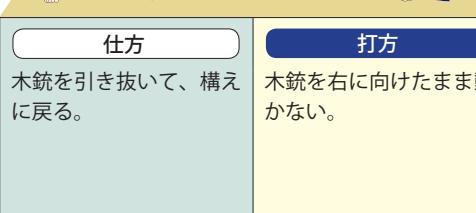
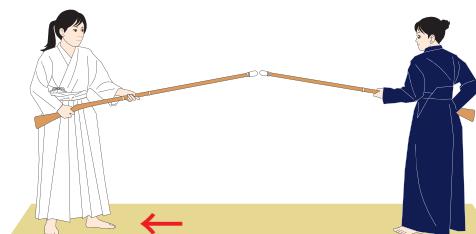
## 仕方

右足から大きく後ろに下がりながら、木銃を右手で引き抜く。

## 打方

木銃を右に向けたまま動かない。

⑨



## 仕方

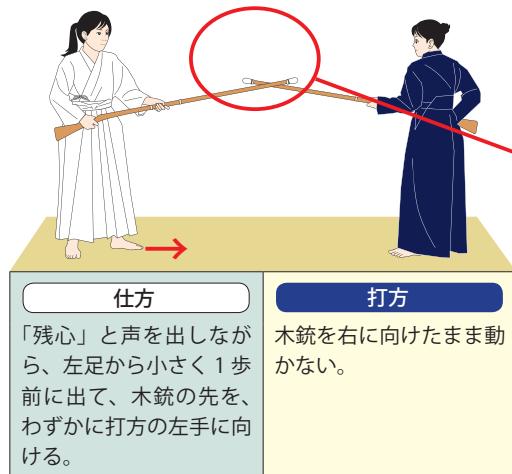
木銃を引き抜いて、構えに戻る。

## 打方

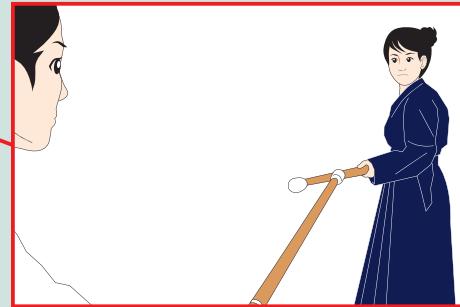
木銃を右に向けたまま動かない。

⑩

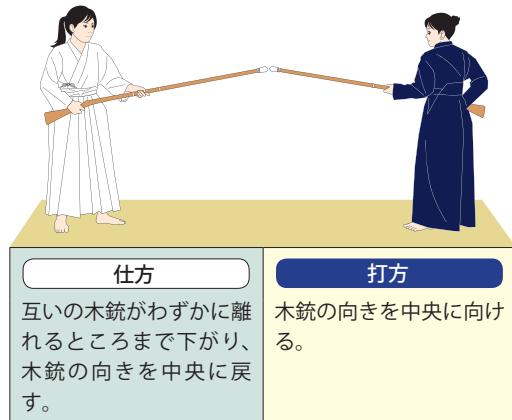
発声：「残心！」



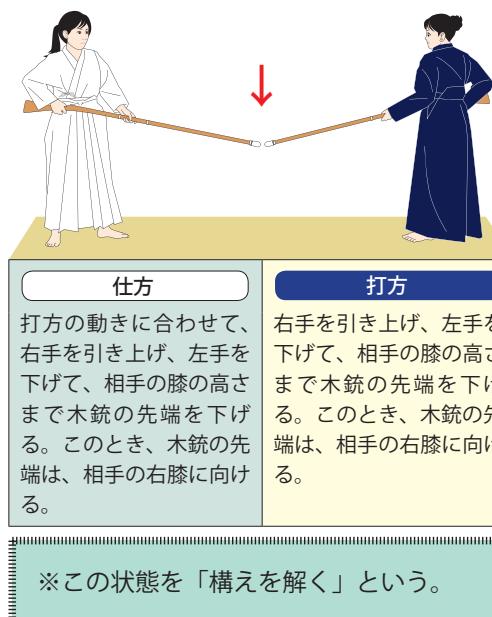
残心のときの木銃の向き



⑪



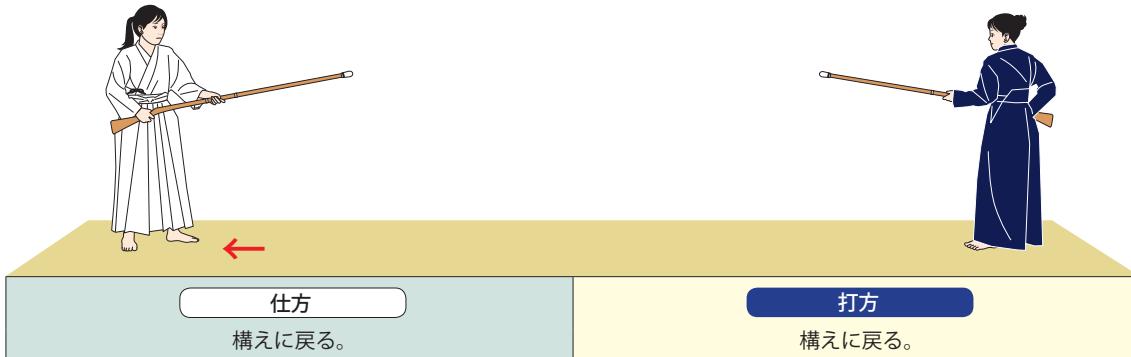
⑫



15



16



17



18

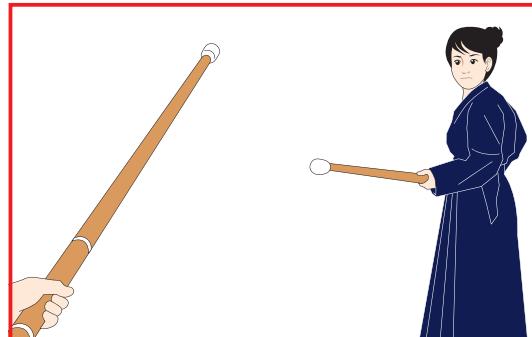
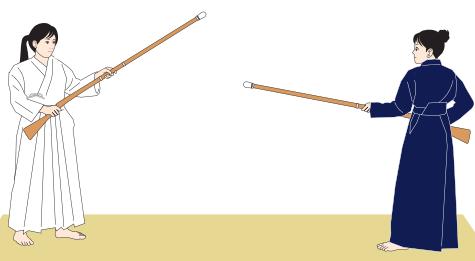


## 4 銃剣道第2学年の形

### (1) 応じ技 右の打ち払い突き

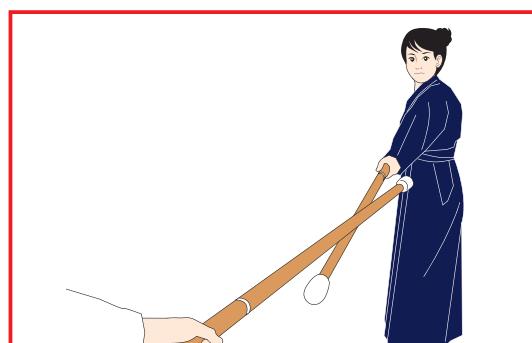
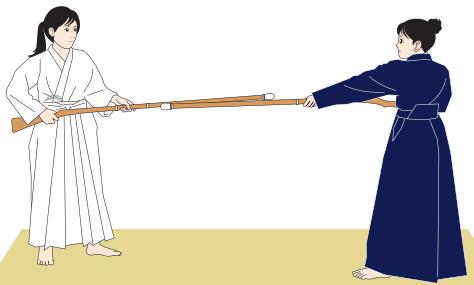
(白:習技者、紺:元立ち)

①



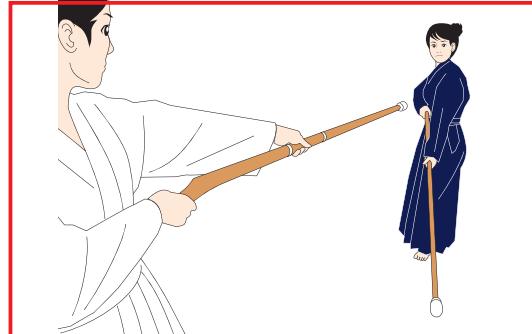
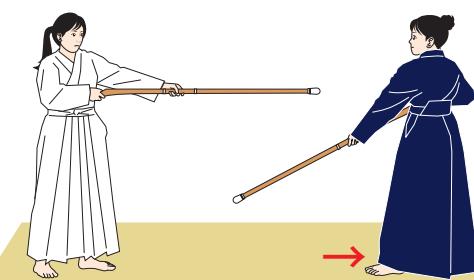
元立ち	「右を払え突け」と号令をかける。
習技者	元立ちの号令の後、両手を前に出して、木銃の先を左上の方に上げる。

②



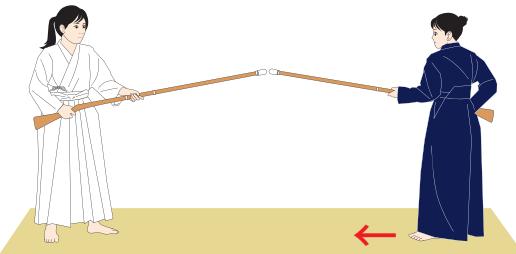
元立ち	習技者が木銃を上げたら、1歩前に出ながら、習技者の右胸の方向にゆっくり木銃を突き出す。
習技者	元立ちが突いてきたら、右手を腰骨まで引いて、構えの姿勢に戻すように、元立ちの木銃を打ち払う。打ち払った後、木銃の先は元立ちの左胸の方向に向いているようにする。

③



元立ち	木銃の先を左下の方向に向けたまま一步後方に下がり、突かせる。
習技者	その場で足を動かさず、元立ちの左胸の方向に突く。

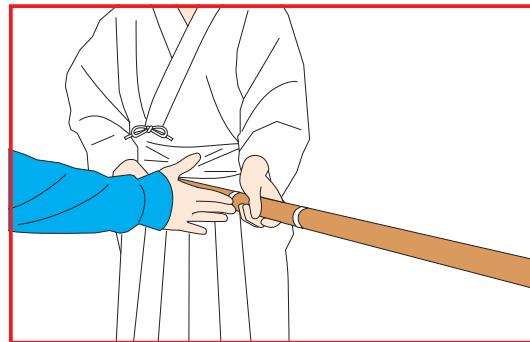
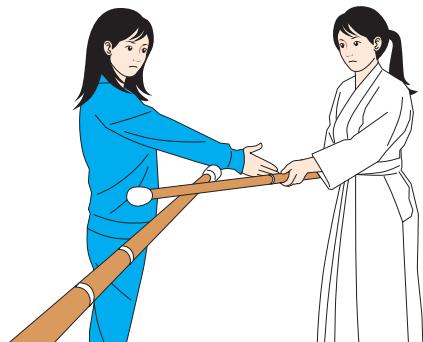
④



元立ち	剣先が、わずかに離れる距離になるところまで前に出ながら、構えの姿勢に戻る。
習技者	木銃を引き抜き、構えの姿勢に戻る。

## (2) 右の打ち払い練習方法

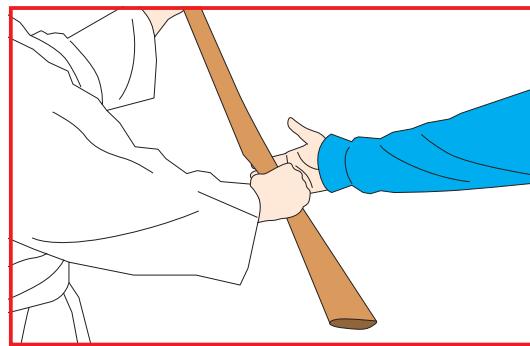
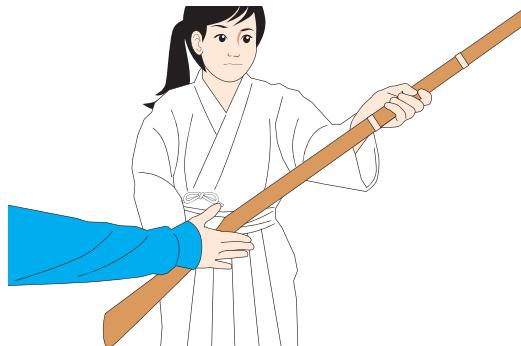
①



## 指導上の留意点

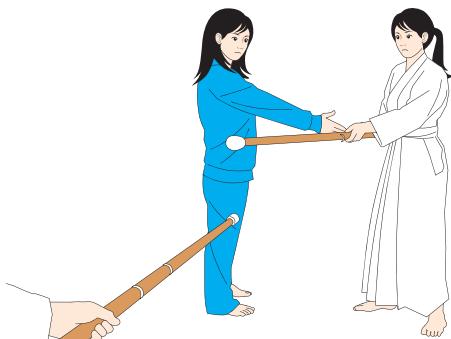
- 打ち払う者（A）、打ち払われる者（B）、払う際の右手の位置を示す者（C）の3人組で行わせる。
- Aは構えの姿勢、Bには木銃の根元を持たせ、AとBの木銃が25cm程度交差する距離で向い合わせる。CはAの右側に立たせる。
- Cは、構えているAの左手の位置に、手のひらをAの側に向けて差し出させる。

②



- Aは、右手がCの手にぶつかるところまで、両腕を左上の方向に出す。

③

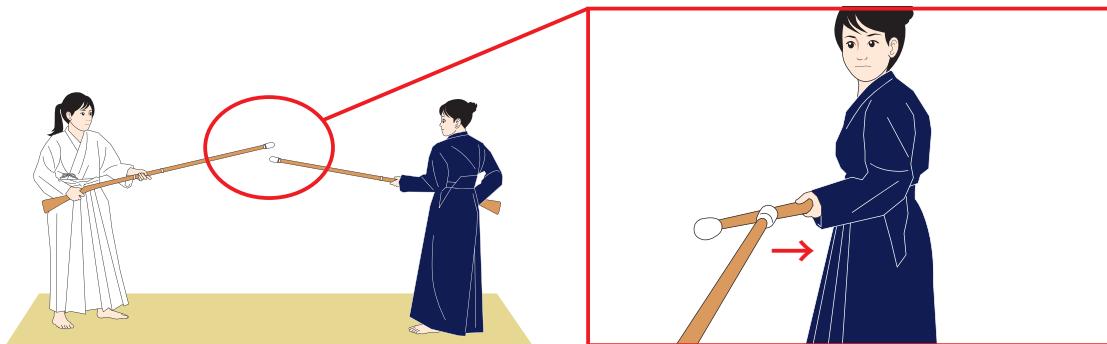


- Aは、右手を腰骨まで引いて、構えの姿勢に戻すように元立ちの木銃を打ち払う。打ち払った後は、木銃の先は元立ちの左胸の方向に向いているようにする

## (3) 応じ技 左の打ち払い突き

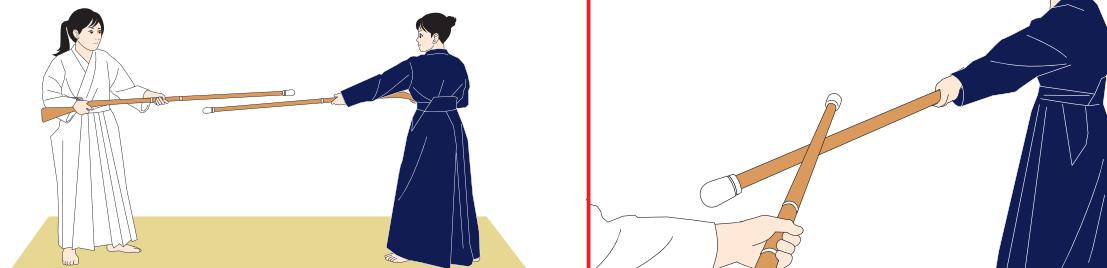
(白: 習技者、紺: 元立ち)

①



元立ち	剣先がわずかに離れる距離から、「左を払え突け！」と号令をかける。
習技者	元立ちの号令の後、木銃の先を元立ちの左肩の方向に向けるように、右に動かす。

②



元立ち	習技者が木銃を右に動かいたら、一步前に出ながら、習技者の左胸の方向に、ゆっくり木銃を突き出す。
習技者	元立ちが突いてきたら、右手をお腹の30cm前のことろまで持ち上げ、木銃を横に寝かすようにして、木銃の左側面で元立ちの木銃を打ち払う。打ち払った後は、右手を腰骨のところに戻し、構えの姿勢になる。このとき、木銃の先は元立ちの左胸の方向に向いているようにする。

③

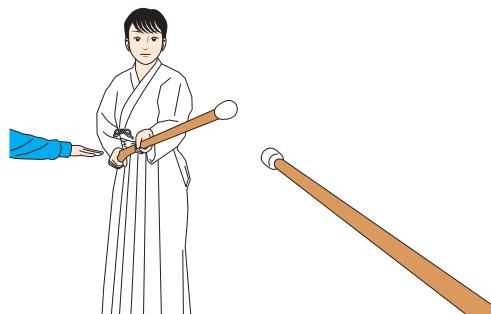
元立ち	木銃の先を左下の方向に向けたまま、一歩後方に下がり、突かせる。 このとき、左胸が相手に見えるように払われた木銃の先端を左に向ける。
習技者	その場で足を動かさず、元立ちの左胸の方向に突く。

④

元立ち	剣先がわずかに離れる距離になるところまで前に出ながら、構えの姿勢に戻る。
習技者	木銃を引き抜き、構えの姿勢に戻る。

#### (4) 左の打ち払いの練習方法

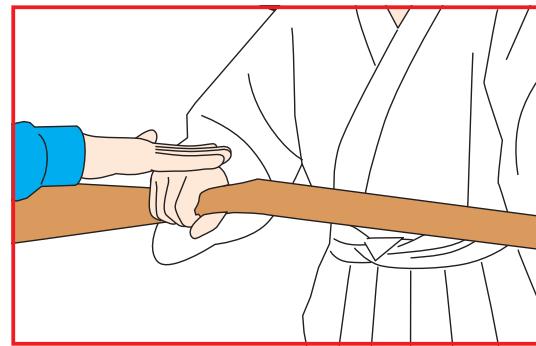
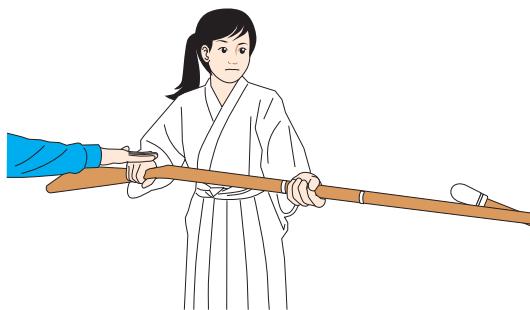
①



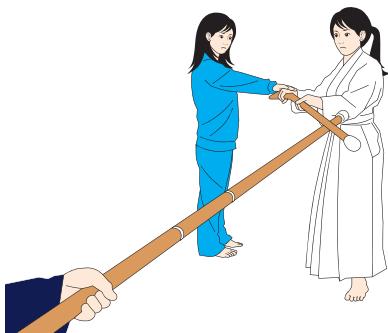
#### 指導上の留意点

- 打ち払う者 (A)、打ち払われる者 (B)、払う際の右手の位置を示す者 (C) の3人組で行わせる。
- Aは構えの姿勢で木銃の先を、Bの左肩の方向に向かせる。Bには木銃の根本を持たせ、AとBの木銃が25cm程度交差する距離で向い合わせる。CはAの右側に立たせる。
- Cは、構えているAの腹の前30cm程度の位置に、手のひらを下に向けて差し出させる。

②

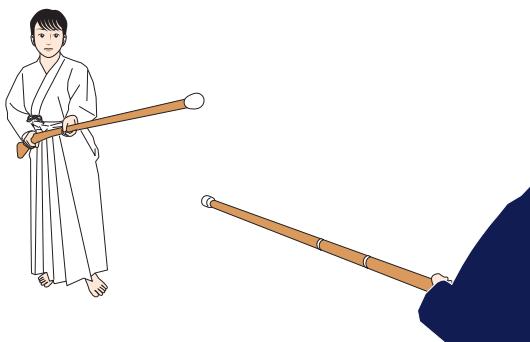


③



● Aは、右手の甲がCの手にぶつかるところまで上げて、Bの木銃を打ち払う。

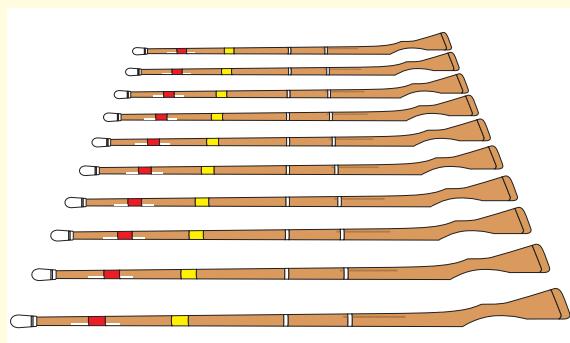
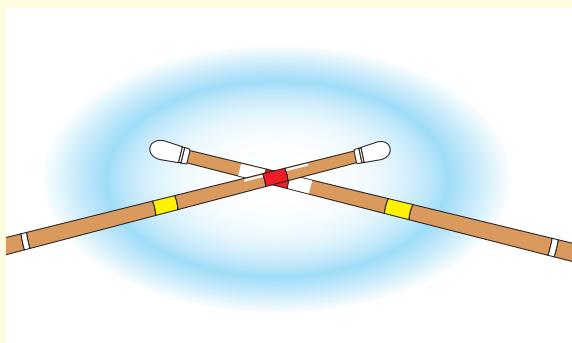
④



●打ち払った後は、右手を腰骨まで戻して構えの姿勢になり、木銃の先は元立ちの左胸に向いているようにする。

### 指導のポイント

木銃に色別のテープを貼って、打ち払う位置をわかりやすくする。



写真例：右の打ち払いは、赤いテープの位置で、相手の木銃の赤色のテープのところを打ち払う。  
左の打ち払いは、白いテープの位置で、相手の木銃の白色のテープのところを打ち払う。  
木銃の黄色のテープより相手の手の近くは打ち払わないようにする。

メモ

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

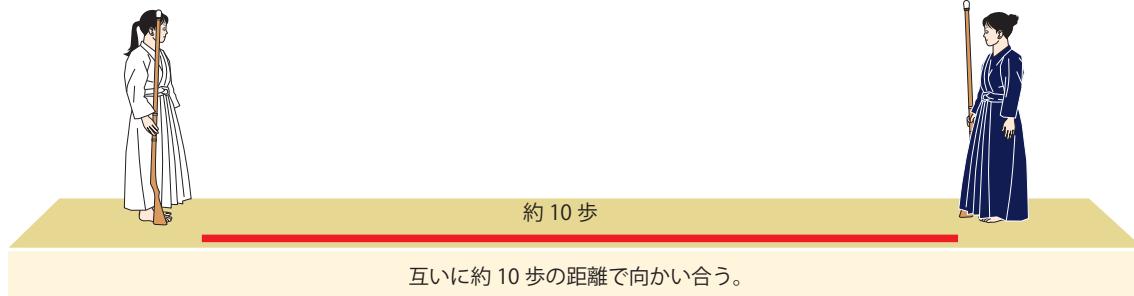
---

---

## 5 銃剣道の形 五本目 ～応じ技右の払い突き～

(白:習技者、紺:元立ち)

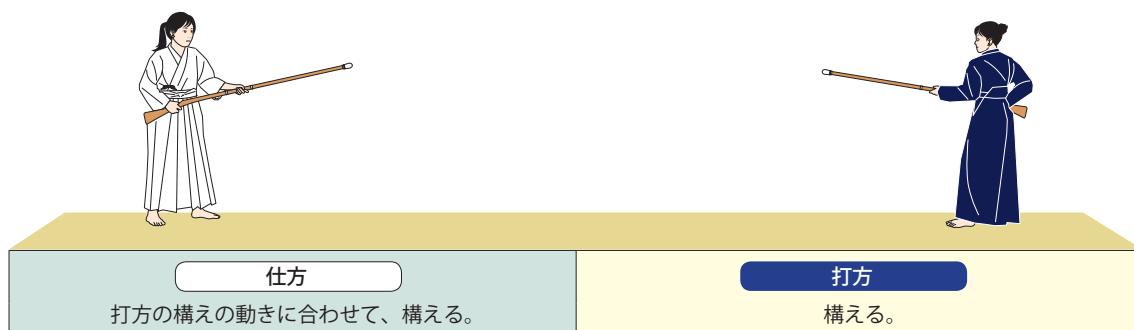
①



②



③



④

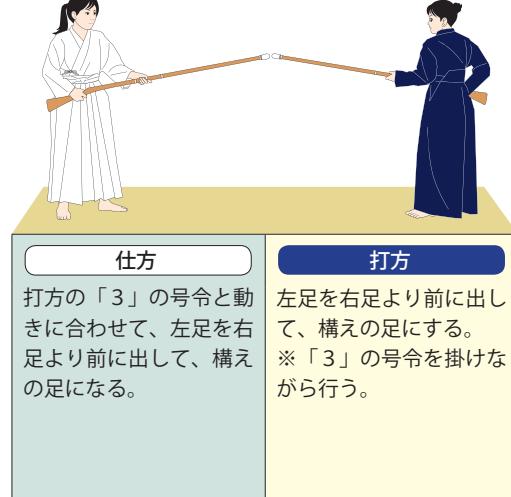
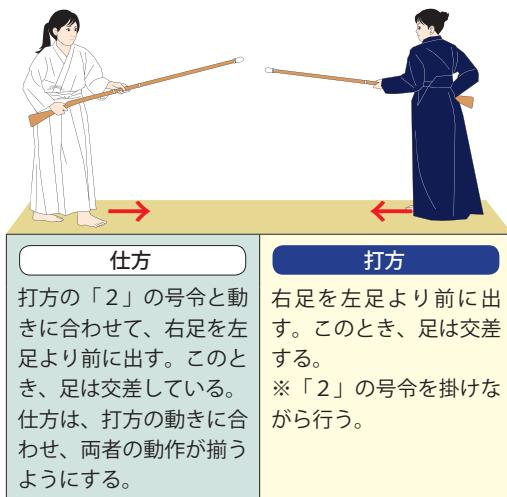


⑤

号令：「2」

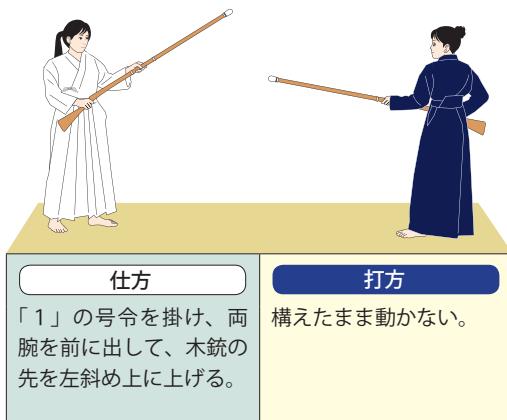
⑥

号令：「3」



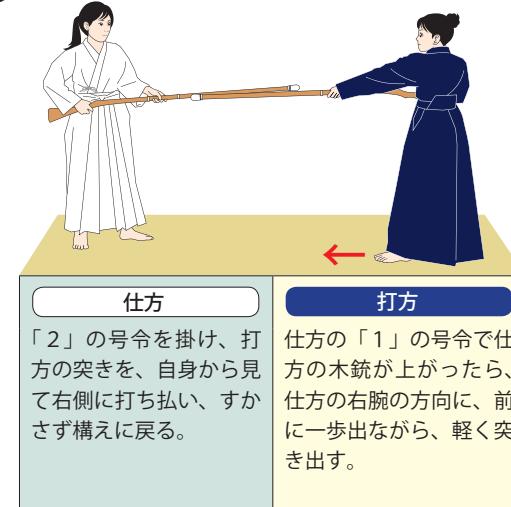
⑦

号令：「1」



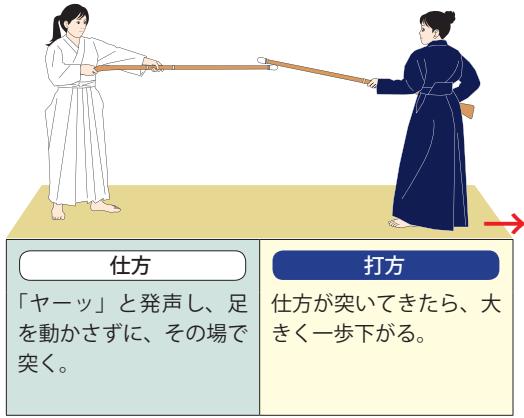
⑧

号令：「2」



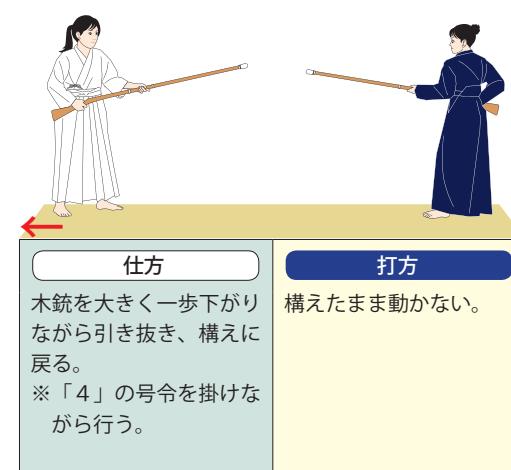
⑨

号令：「3」



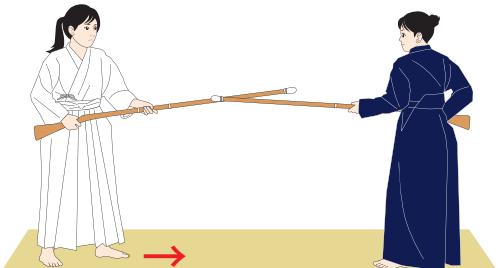
⑩

号令：「4」



# 銃剣道

⑪ 発声：「残心！」



仕方

「残心」と発声しながら、左足から小さく一步前に出て、木銃の先をわずかに打方の左手に向ける。

打方

構えたまま動かない。

⑫



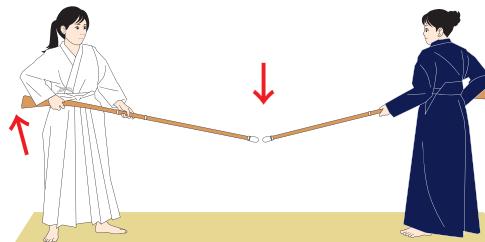
仕方

木銃がわずかに離れるところまで前に出て、木銃の向きを中央に戻す。

打方

木銃の向きを中央に向ける。

⑬



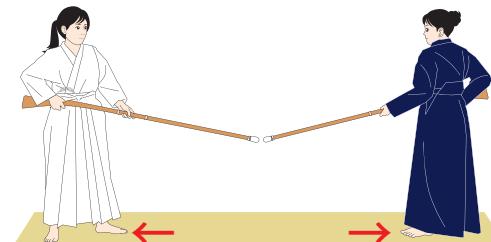
仕方

打方の動きに合わせて、右手を引き上げ、左手を下げて、相手の膝の高さまで木銃の先端を下げる。このとき、木銃の先端は、相手の右膝に向ける。

打方

右手を引き上げ、左手を下げて、相手の膝の高さまで木銃の先端を下げる。このとき、木銃の先端は、相手の右膝に向ける。

⑭



仕方

右足を下げて、後ろに下がり始める。  
仕方は打方の動きに合わせ、両者の動作が揃うようにする。

打方

右足を下げて、後ろに下がり始める。

⑮



仕方

右足を下げた後、左足、右足、左足、右足の順に、歩み足で小さく後ろに5歩下がる。  
仕方は、打方の動きに合わせ、両者の動作が揃うようにする。

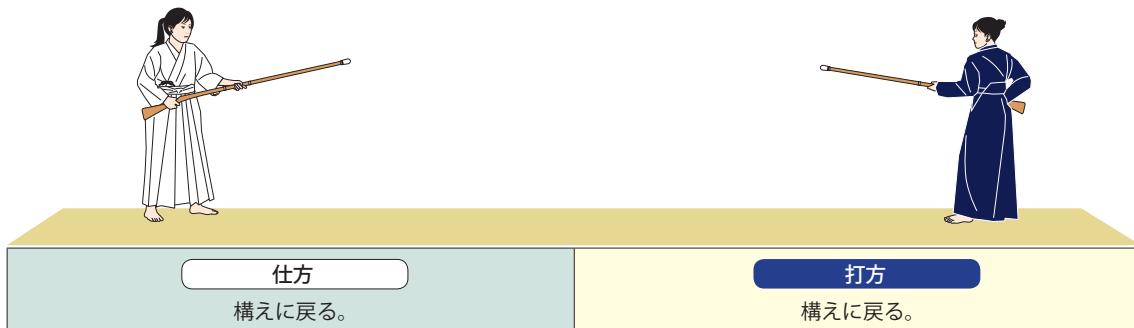
打方

右足を下げた後、左足、右足、左足、右足の順に、歩み足で小さく後ろに5歩下がる。

16



17



18

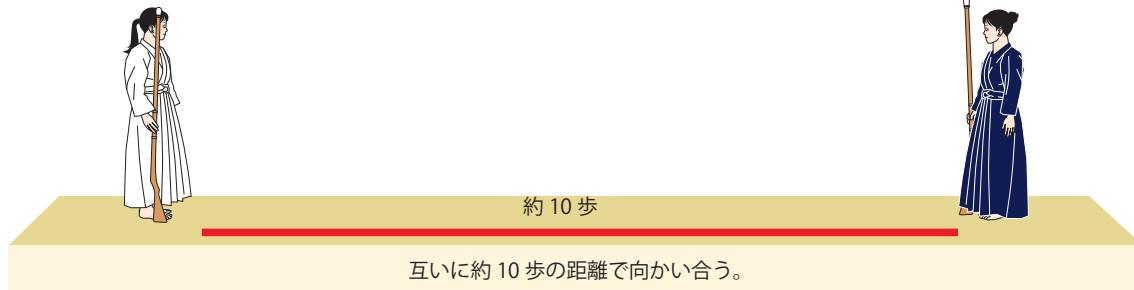
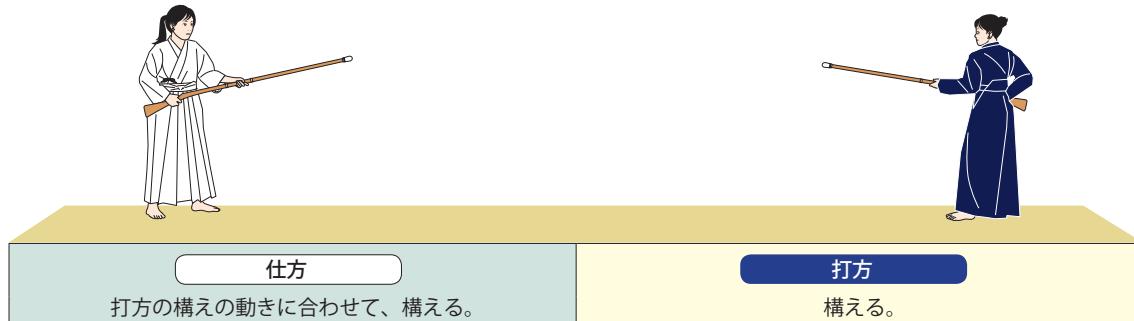


19



## 6 銃剣道の形 六本目 ~応じ技左の払い突き~

(白:習技者、紺:元立ち)

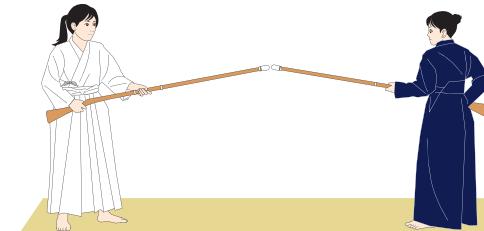
**①****②****③****④**

⑤

号令：「2」

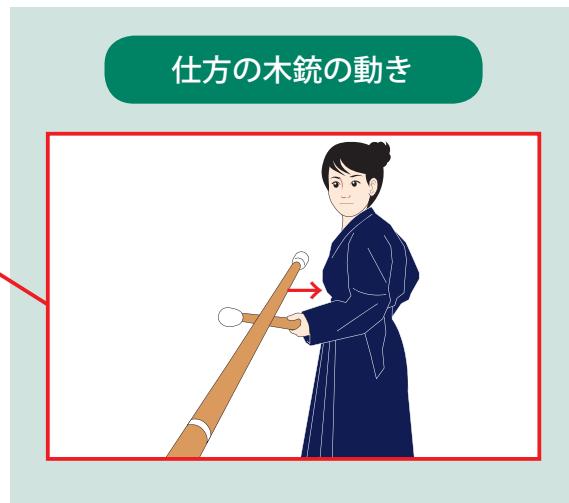
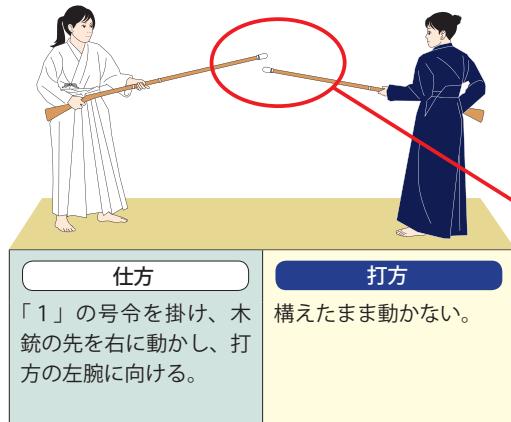
⑥

号令：「3」



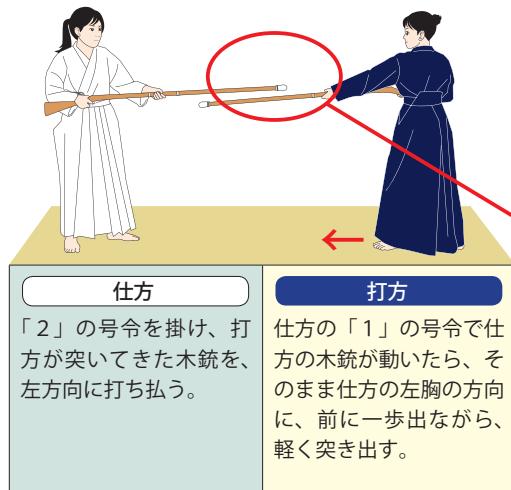
⑦

号令：「1」



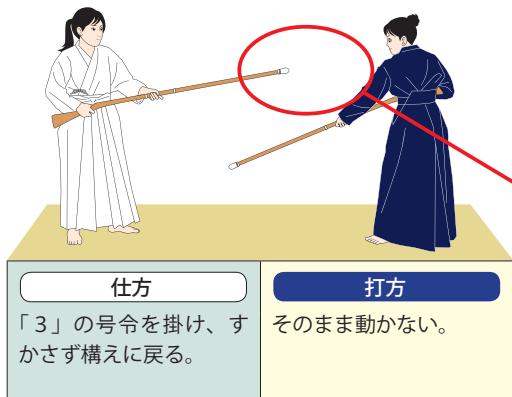
⑧

号令：「2」



## 銃剣道

⑨ 号令：「3」



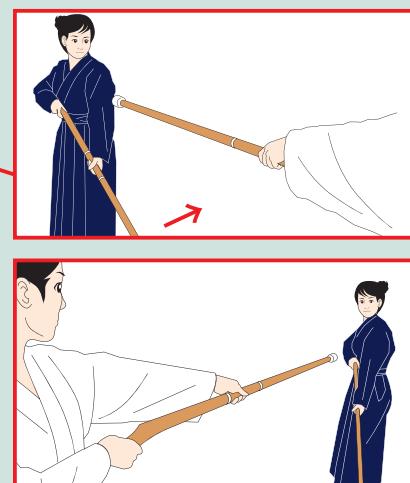
打ち払った後の木銃の位置



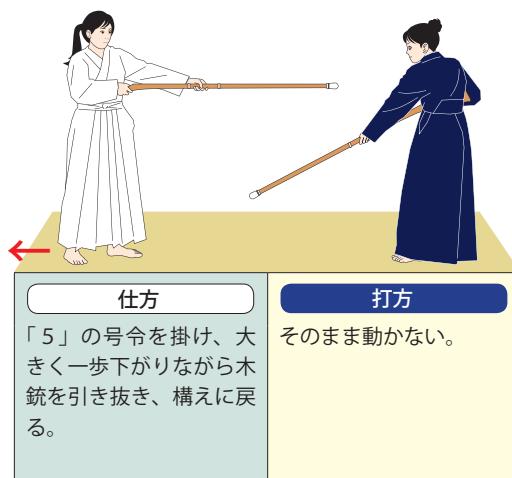
⑩ 号令：「4」



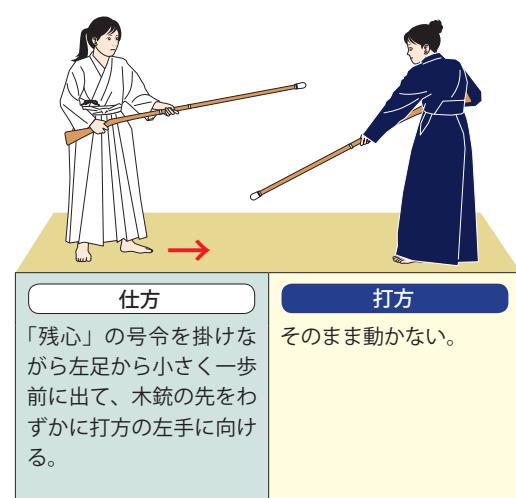
打ち払って突くときの木銃の位置



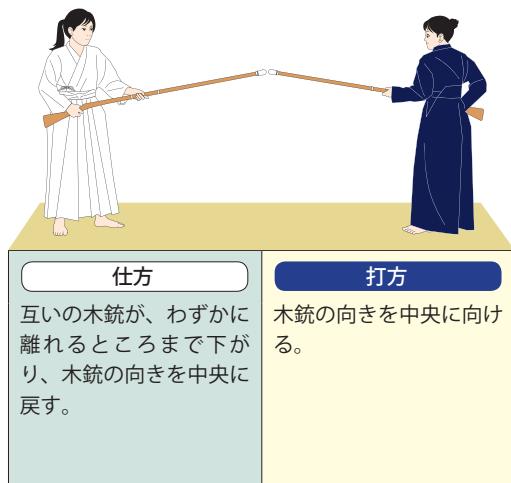
⑪ 号令：「5」



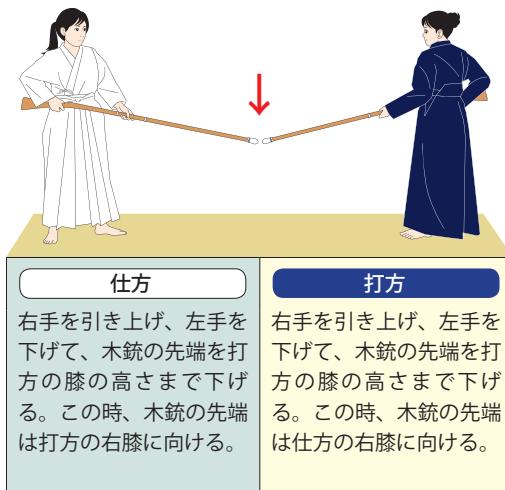
⑫ 発声：「残心！」



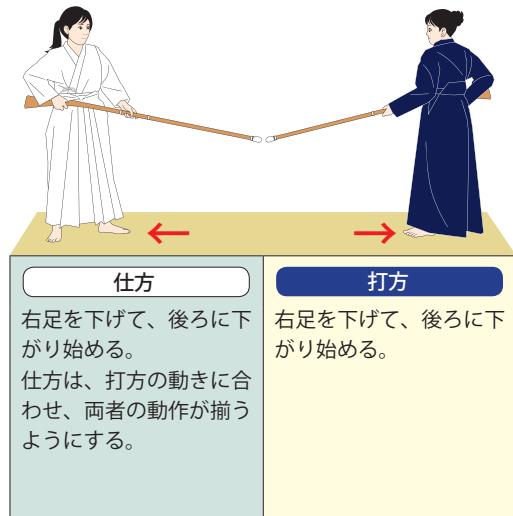
13



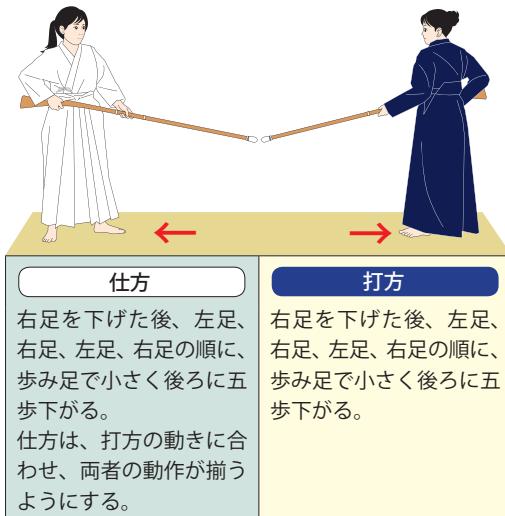
14



15



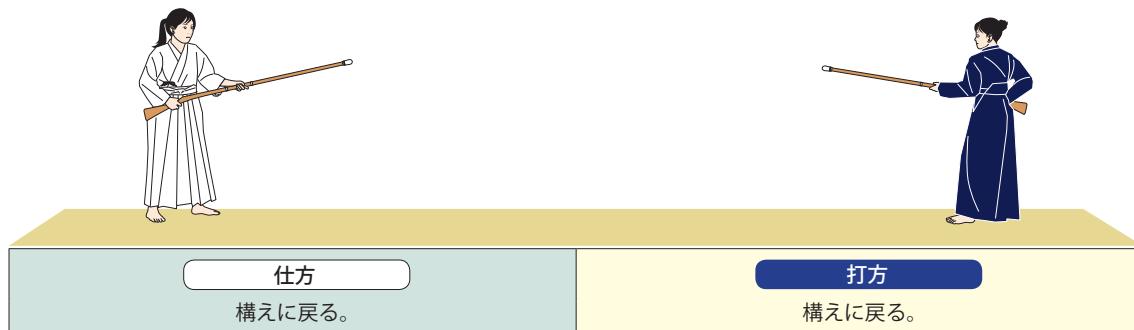
16



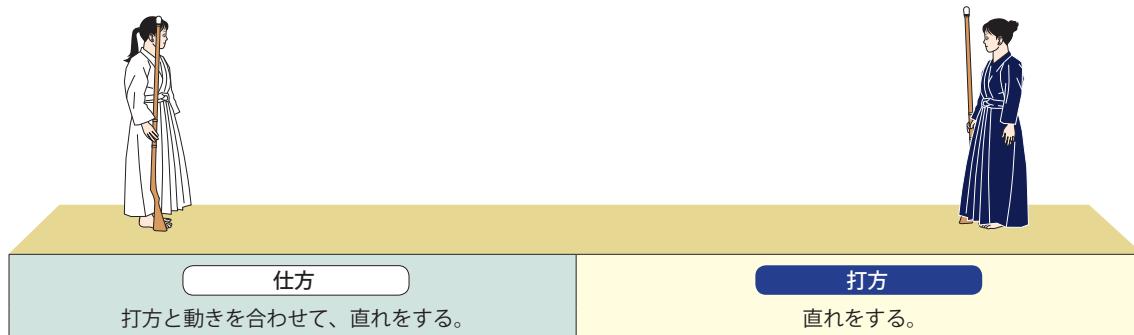
17



18



19



20

